



『山形県美しい森林づくり協議会』（事務局山形県森林協会）は、林野庁が全国的に展開している『美しい森づくり推進国民運動』を広く展開しているため、フォレストサポーターズ活動をしています。



# 森林やまがた増刊号 「やまがた緑環境税特集」

山形市で開催された森の感謝祭



南陽市太郎地区（伐採後約11年経過）



米沢市で開催された森づくりフォーラム

**森づくりの輪が広がっています！**  
**6月第1土曜日は「やまがた森の日」**  
**森づくりの輪に参加しましょう。**

## — 森林やまがた増刊号 目次 —

やまがた緑環境税を活用した森づくりに対する県民の声… 2	各総合支庁での県民参加の
やまがた緑環境税を活用する事業の考え方と事業展開… 3	森づくりの推進…………… 8～11
環境保全を重視した森林整備 1 …………… 4	自然環境学習や森に親しむ環境づくりの推進…12～13
環境保全を重視した森林整備 2 …………… 5	自然環境保全対策の推進、
環境保全に配慮した森林資源の循環利用………… 6	新たな森づくりの推進体制の整備……………14
やまがた緑環境税を使った森林整備の効果判定… 7	

**県民の皆様のご協力に  
 深く感謝申し上げます。**

「やまがた緑環境税」は県民共有の財産である森林を守る事業に活かされています。



## やまがた緑環境税を活用した

### 森づくりに対する県民の声

YTS山形テレビ アナウンサー 鈴木千尋

山形の山の色が変わってきている、紅葉ではなく木々が枯れている。こんな痛ましい現状を今を生きる私達で何とか食い止めなければ・・・

3年前「やまがた緑環境税」が導入された時 その危機感を県民みんなが考えるきっかけになりましたね。

山はあって当たり前、森は四季折々の姿を見せてくれるものと思い私達は育ってきましたがそれが失われようとしている・・・荒廃した森再生の為に県民の皆さんが立ち上がったのです。

平成20年1月「やまがた緑環境憲章」を発表するイベントで司会を担当した時の熱気を今でも覚えています。

雪模様の寒い日でしたが 霞城セントラルの会場には多くの方が足を運んで下さいました。憲章は冒頭こんな言葉で始まります。

「森は、先人からの贈りものであると同時に、未来の世代からの預かりものです」

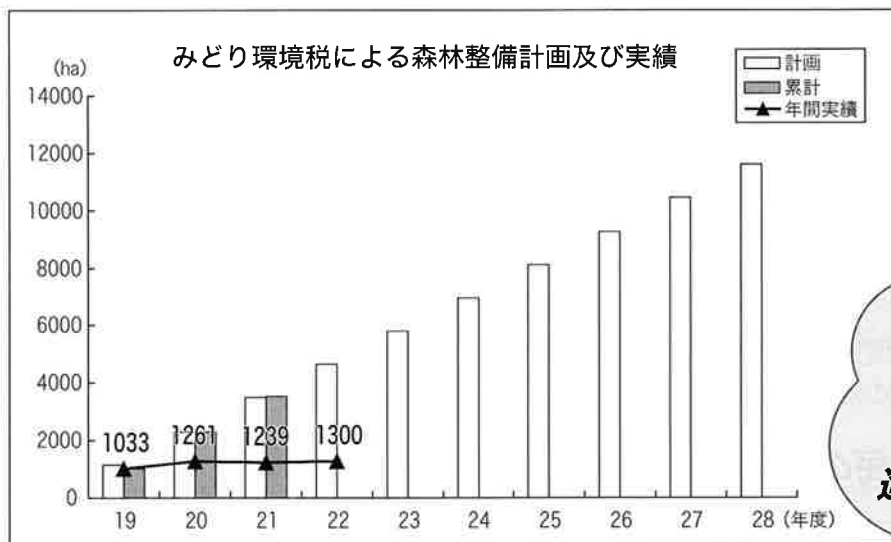
この思いを共有した方々の森づくりは 現在 県内各地に広がって そこに多くの子供たちが参加しているのも山形の誇りですね。緑環境税を活用した森林整備も着実に進行しているそうです。私達の力は小さなものですが役割があることは喜びです。

山形の森づくりは県民の力でこれからも受け継いでいくもの、緑環境税が有効に活用されますよう今後も期待しております。

#### やまがた 緑環境憲章 抜粋

- 1 暮らしや環境を守るため、豊かな森づくりを進めます。
- 2 森や木の文化を見つめ直し、暮らしの中に木を活かします。
- 3 一人ひとりの力を活かし、森づくりの輪を広げます。
- 4 森や自然の大切さを学び、森との絆を深めます。
- 5 みんなで森づくりを支え、かけがえのない森を未来に贈ります。

### おかげさまで、やまがた緑環境税を活用した森林整備も順調に進んでおります。



10ヵ年整備計画量11,600ha  
の達成のため、毎年1,160ha  
以上を目標に整備を行って  
います。

平成21年度末までの  
整備累計面積は3,531haで、  
10ヶ年の整備計画量に対して、  
**進捗率30%**となっております。

注：平成21年度実績は3月末見込みです。

# 〈やまがた緑環境税を活用する事業の考え方と事業展開について〔平成21年度〕〉

H21やまがた緑環境税活用事業 622,267千円(3月末見込み)

## I 環境保全を重視した施策の展開 (465,405千円)

### ① 環境保全を重視した森林整備の推進 (443,861千円)

【森林環境緊急保全対策事業費】◇荒廃森林緊急整備事業 1,239ha(森林課:443,861千円)

スギ人工林を広葉樹が入り混じった森林へ誘導 事業量 66ha

広葉樹を導入するための強度の間伐や植栽、作業路の設置など



～自然生態系が豊かで公益的機能が高度に発揮される森林へ～



整備前



将来のすがた

スギ人工林をいろいろな樹齢からなる森林へ誘導 事業量 952ha

間伐や作業路の設置など、森林組合等が森林所有者に代わって施業を一元管理し、森林の公益的機能を維持する仕組みを構築



～多様な樹齢からなる森林が面的に配置され、公益的機能が特長的に発揮される森林へ～



整備前



将来のすがた

病害虫などで荒廃した里山林の再生 事業量 221ha

病害虫被害木の伐採、広葉樹の植栽、簡易土留柵の設置など



～多様な樹種や年齢で構成する緑豊かな明るい里山林へ～



整備前



将来のすがた

### ② 環境保全に配慮した資源循環利用の促進 (21,544千円)

【森林環境緊急保全対策事業費】(森林課:21,544千円)

◇森林資源循環利用促進事業 事業量 21,000m<sup>3</sup>

合板、パルプ、ペレット等間伐材の総合的利用のための搬出支援



## II 21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築 (139,230千円)

### ① 県民参加の森づくりの推進 (118,116千円)

【県民みんなでできる森・みどり環境公募事業費】(みどり自然課:29,137千円)

NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動の支援

- 事業項目及び例示**
- 1 森林・自然環境学習 (学校やPTAとの協働による環境学習、森づくり体験)
  - 2 自然環境の保全活動 (河川の水環境、希少野生生物の保全活動)
  - 3 豊かな森づくり活動 (里山林の保全活動)
  - 4 森林資源の利活用 (県産材を使った木製品の導入、間伐材の利活用)

【みどり環境交付金事業費】(みどり自然課:88,979千円)

市町村が地域の課題に応じ、主体的に取り組む森づくり活動等の支援

- 事業項目及び例示**
- 1 森林・自然環境学習 (学校林等の整備、活用、緑の少年団を対象とした取組み)
  - 2 自然環境の保全活動 (河川の水環境保全、希少野生生物生息地の保全)
  - 3 豊かな森づくり活動 (地域住民や企業との協働による森づくり)
  - 4 森林資源の利活用 (県産材の普及啓発、間伐材やバイオマスの利活用)

### ② 自然環境保全対策の推進(14,542千円)

【動物共生の森づくりモデル事業費】

(みどり自然課:450千円)

野生動物との共存を図る緩衝林帯整備技術の蓄積

【自然環境総合モニタリング事業費】

(みどり自然課:6,843千円)

自然環境の異変を早期に察知する調査検討

【大型鳥獣等野生復帰事業費】

(みどり自然課:1,117千円)

傷病等で救護された野生鳥獣復帰支援

【ナラ枯れ被害対策実証事業費】

(森林課:6,132千円)

被害予防対策の実証試験や被害材の有効利用

## III 新たな森づくりの推進体制の整備 (17,632千円)

【やまがた緑県会議費】(みどり自然課:545千円)

緑環境税活用事業の評価検証

【新たな森づくりの普及啓発事業費】

(みどり自然課:7,397千円)

緑環境税の普及啓発、森づくり行事の開催

【森づくりサポート体制推進事業費】

(みどり自然課:9,370千円)

県民参加の森づくり活動の総合的な支援

【低炭素社会の構築に向けた森林資源等評価・認証事業】

(森林課:320千円)

森林のCO<sub>2</sub>吸収量の評価・認証制度の仕組みの検討

新規

### 県民への普及啓蒙

・環境憲章、シンボルマーク  
森づくりへの理解

### やまがた緑県会議

・事業の評価検証  
・施策の点検、見直し

### 公益の森づくり支援センター

・情報発信、技術支援  
・活動のネットワーク化



### ③ 自然環境学習や森に親しむ環境づくりの推進(6,572千円)

【元気な森の学校推進事業費】

(教育やまがた振興課:800千円)

少年自然の家を活用した環境学習の実施

【自然環境学習推進事業費】

(みどり自然課:1,821千円)

指導者の育成や副教材等の作成

【総合支庁実施事業費】(3,951千円)

- ・子どものための森林学習支援事業(村山)
- ・次世代に誇れる森林文化創成事業(最上)
- ・おきたま「癒しの森」体験事業(置賜)
- ・県民誰もが森と親しむ自然環境学習事業(置賜)
- ・置賜自然環境学習エリア整備事業(置賜)
- ・羽根庄内公益の森づくり事業(庄内)

一部  
新規

# 環境保全を重視した森林整備1

## 作業道整備による路網を利用して

## 地区で、継続的に森林整備を実施していきたい

### 最上町若宮地区の取組み

県では平成19年度から「荒廃森林緊急整備事業」で長期間管理が放棄されたため荒廃した森林の整備を全市町村で実施していますが、この事業をきっかけに所有者自らが管理を継続していこうとする取組みを紹介します。

最上町若宮地区では、平成20、21年度にスギ林の長期育成林整備として抜き伐り（間伐）50.1haと作業路2,910mの整備を行いました。当森林は林齢が35年生前後で所有者は75名です。昭和50年頃の拡大造林が盛んに行なわれていた時期に地区を挙げて造林に取り組み、15年程は全員で下刈りを継続してきましたが、その後の管理はわずかの人が除伐や間伐を行ってただけでした。また、造林時に開設した作業路も一部崩落し灌木に覆われるなどほとんど利用できない状態でした。

この事業による間伐と作業路整備によって、混みあっていたスギ林が蘇り、作業路を利用して容易に所有林に行くことができるようになったことを踏まえ、作業路と所有林の今後の管理について地区総会で話し合われました。地区の造林組合では若い人も加わり活動を再開し、毎年6月の休日に地区を挙げて作業路の刈払いなどの維持管理作業を行なうとともに、世代交代により森林の所在が不明な所有者には森林組合も参加して所有界の確認を行うなど、地区全体の森林整備を進めていくことにしたそうです。また、10年後には利用間伐も可能となることから、地区でまとまって搬出路の開設や施業を行い、収益をあげるともに、豊かな森林を次代に引き継ぐことにもなるでしょう。

〔最上総合支庁森林整備課〕



整備後の森林と作業路

## 病害虫などで荒廃した里山林の整備（ナラ枯れ対策）

### 1 事業の趣旨

ナラ枯れ被害が全県に拡大するようになり、今年度置賜管内では全県被害本数112千本の半数以上となる62千本の被害が確認されました。

今後、人家や道路などの公共施設等に被害を及ぼすことが懸念されるため、対策としてそのような二次被害を引き起こす恐れのあるナラ枯れ被害木の緊急伐採を里山林整備の作業種として追加し、事業として取り組むこととなりました。

### 2 事業の概要

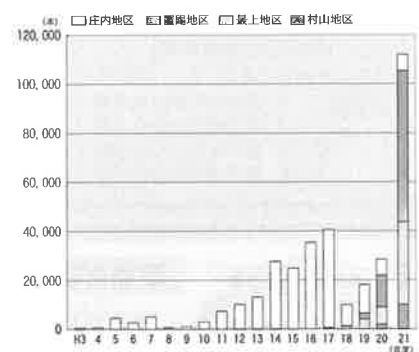
事業は置賜管内で被害が最も早く発生し、被害量が最も多い小国町において、役場と森林組合の協力を得て事業箇所を選定した結果、主要道路及び公共用水路に隣接する被害木を対象に実施することにしました。

### 3 事業後について

緊急伐採は約350本を予定しており、事業箇所の二次被害はなくなるものと思います。しかし、さらに跡地対策が必要と考えられるため、町では跡地対策として町民参加による植栽・保育活動を検討中です。今後は、これら事例を参考にして跡地対策を検討していく必要があります。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

ナラ枯れ被害状況(H21.9現在)



二次被害が懸念されるナラ枯れ被害木

# 環境保全を重視した森林整備2

## 間伐材の有効利用を推進

### 酒田市南平沢地区の取組み

酒田市（旧八幡町）南平沢地区で7.19ヘクタール（森林所有者40名）の間伐と700メートルの作業路開設、作業路周辺の間伐材の集材と搬出を実施しました。

「荒廃森林緊急整備事業」は長期間管理が行われていないスギ林を対象にしており、被圧木や雪害木、曲り木など欠点のある木を多く伐採するため、建築材や合板用に利用可能な材は少なく、林内に放置される間伐材が多い状況です。

本事業では森林資源の循環利用を促進するため、酒田市内のチップ工場に搬出（集材した間伐材の搬出は「森林資源循環利用促進事業」を活用。）し再資源化が図られました。

また、作業路を地区の既設作業路に接続して開設したことにより林内路網が充実し、事業実施森林と周辺森林が団地化され、今後の森林施業や将来の間伐・主伐の利便性が向上しました。



間伐材の搬出状況

また、開設作業路及び既設作業路に必要な応じ敷砂利をしたことから軽自動車での通行も可能となり、それまで所有森林へ行く事が難しかった方も事業完了後の森林の状態を確認し、所有森林への関心を高めていただくことができました。

今後は隣接する荒廃森林の整備を行い、当該地区の森林の公益的機能の維持・向上と、間伐材の有効利用を図りたいと考えます。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

## 期待される森林整備の推進と林産物の利用拡大

### 西川町見附地区の取組み

西川町内では、やまがた緑環境税を財源とした事業で、10年間に498haの森林整備を計画しています。そこで、効果的に整備を進めるため、西川町や西村山地方森林組合と協議し、できるだけ地域ごとにまとめて整備することにし、町の中心部から最も遠い大井沢の見附地区から事業に着手しました。

見附地区では、平成19年、20年の2年間でスギ人工林を5.93ha整備しました。これを契機に地元でも、共有林の所有者を中心に森林整備推進の気運が高まり、「森林整備にはまず林内路網が不可欠」ということで、西村山地方森林組合が補助事業の採択を受け、作業道を開設することになりました。

この作業道は、林道大井沢西廻線を起点とし、延長885m、利用区域面積26haであり、森林所有者の意向を確認しながら森林組合が測量設計を行い、地元建設業者に発注したものです。完成した平成20年12月には、見附地区で関係者が集まり盛大な竣工祝賀会が開催されました。

祝賀会では、作業道の完成を祝うと共に、今後の利活用について様々な意見が熱く語られました。この作業道により、税事業実施後の森林管理、近接地の間伐やほだ木の採取など、森林整備や林産物の利用が大幅に進むと期待されます。

〔村山総合支庁森林整備課〕



完成した作業道

# 環境保全に配慮した森林資源の循環利用

## 森林資源循環利用促進事業

### 間伐材の利用促進に向けた取り組み

#### ◆はじめに

森林所有者の自発的な間伐の推進を図るため、やまがた緑環境税を活用して搬出経費の支援により、間伐材を円滑に流通・利用させる取組みを行っていますので、その概要を紹介します。

#### ◆事業の概要

##### 1：事業目的

森林所有者の自発的な間伐等森林整備の推進や間伐材等の有効利用による資源循環型社会の構築

##### 2：事業主体

山形県森林組合連合会、山形県素材生産組合連合会

##### 3：支援の仕組み

間伐材等の搬出・運搬に対して1m<sup>3</sup>あたり1千円以内の補助

##### 4：事業量 2万1千m<sup>3</sup>

##### 5：事業費 21,544千円

##### 6：補助の条件 チップやペレット向けに事業計画量の4割以上を搬出すること

#### ◆これまでの経過

本事業は平成19年度からはじめて今年度で3年目ですが、19年度が8,592m<sup>3</sup>、20年度が11,768m<sup>3</sup>、21年度が21,000m<sup>3</sup>（見込み）と着実に事業量が増加しています。

平成16年から5年間の民有林の間伐材利用実績は表1のとおりですが、5ヵ年平均1万6千m<sup>3</sup>に対して、本事業の定着とともに、平成21年度の民有林間伐材利用量は約3万m<sup>3</sup>と倍増することが見込まれています。

#### ◆今後の課題

本事業の実施により県内の間伐材の搬出量は年々増加し、低質な間伐材の利用の仕組みが着実に地域に根付きつつあります。こうした流れを加速させ定着させるためには、これらを担う人材の育成や仕組みの充実が重要です。

このため、雇用対策事業、やまがた緑環境税活用事業や路網整備地域連携モデル事業等による高性能林業機械の能力を最大限に引き出す路網整備、高性能林業機械のオペレーターの養成及び伐採、搬出、運材の効率的な組合せによる作業をコーディネートする人材の育成を進め、一人当たりの搬出量の増大を図る必要があります。今後は本事業による直接的な支援のほか、このような人材の育成を併せて進め、効率的な間伐事業を可能とする技術力の高い林業従事者を養成し、間伐の推進と森林資源の循環利用を図っていききたいと考えています。

〔県森林課〕



表1 県内民有林間伐材利用実績

用度	年度	16	17	18	19	20
製材		8	9	6	6	9
丸太		6	4	2	1	2
チップ等		1	3	2	3	3
合板等		—	—	0	5	12
計		15	16	10	15	26

(単位：千m<sup>3</sup>)

# やまがた緑環境税を活用した森林整備の効果判定

整備した森林の変化を追跡調査し、効果を評価していきます。

## ◆森林整備の効果判定について

この調査は、整備前の調査と整備後の定期的な調査の結果を比較して、その変化から整備効果を評価していくことを目的に行っているものです。

併せて、整備対象外の森林について、その変化を定期的に調査し、整備箇所との変化の違いを把握しております。

調査は、3年間隔で行っており、整備対象森林では72カ所、対象外の森林では41カ所の調査プロットを設定しております。

## ◆調査内容について

荒廃した森林は、下層植生が乏しく、有機物が循環しにくい土壌の状態になっています。

また、土壌PHも酸性に大きく傾いており、植物の生育には不向きな状態になっています。そのため森林の整備によって、どのように下層植生が推移して、植物の生育に良好な土壌に変化するのか、植生及び土壌の調査を行い実証するものです。

### ① 調査地の設定

図1のように対象森林に20m×20mの大プロットを、大プロット内に10m×10mの中プロットと1m×1mの小プロットを設定していきます。

### ② 植生の調査

#### 【毎木調査】

大プロット内で胸高直径4cm以上の個体について、樹種、樹高及び胸高直径を測定します。

木本から草本までの全ての種について、被覆率（植物が地面を覆っている割合）を測定します。

#### 【低木類調査】

中プロット内で直径4cm未満1.5m以上の個体について、樹種、樹高、根元径を測定します。

#### 【稚樹調査】

小プロット内で1.5m未満の木本の稚樹の樹種、樹高を測定します。（侵入する高木性稚樹の数が大きな指標となります）

### ③ 土壌の調査

土壌の断面及び酸性雨などへの緩衝機能の把握のためPHを継続測定します。

## ◆おわりに

本年度、予定個所での植生調査などが一巡し、整備後3年経過した森林の状況は、下層植生の被覆率が進み、確実に回復している事が解かってきました。詳しい報告が出来るまでには一定期間の調査が必要なため、継続して取り組んでまいります。



荒廃した森林の状況



整備した森林の状況



プロット設置状況



土壌調査の状況

調査プロット模式図

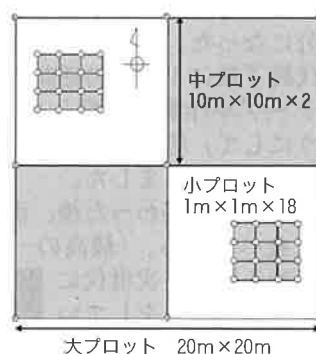


図1

### 「森づくり活動活性化フォーラム&村山地域森づくり活動報告会」

平成22年2月6日(土) 山形市「山形国際交流プラザ(山形ビッグウイング)」

今回のフォーラム&報告会は、前週まで県内3会場で開催されてきた地域森づくり報告会の集大成として開催されました。吹雪の悪天候にもかかわらず県内各地から約200名の参加があり、ポスターセッション、三つの分科会(森林・自然環境学習と保全活動、豊かな森づくり活動、森林資源の利活用)に分かれて行われた森づくり活動報告会や全体会で参加者から多くの意見が寄せられました。

「都市化が進むなかで里山を活用した活動が楽しい」、「どんな活動をしているか、情報発信が必要」、「いろんな団体などが一緒に学ぶ事が大切である」、「里山の管理方法、山の恵みを得る心の豊かさ大切である」、「みどり環境税を活用しながらも会費や協賛金、参加費など自己資金がないと活動がうまくいかない」、「食育の面からも昼食を入れる楽しみがある方が有効であり、弁当持参や参加費でキノコ汁や芋煮を行っている」、「地域の山に地域住民から関心を持ってもらうために森づくり活動をしている」、「公募事業の書類づくりが大変なので簡素化できれば助かる。書類が毎年少しずつ変わるのも疑問である」、「環境税が今後も続くのか心配である」、「森林資源の活用はプロとボランティアの連携補完が必要である」、「文化、森と資源の有効利用が必要である。森のエネルギー利用を安く手に入れる方法が必要である」等々。

講師の田中淳夫さん(森林ジャーナリスト)からは、森づくり活動が長続きするためには、他団体との交流、情報交換、新しい会員の確保が重要であることをお話いただき、参加者の意識がより一段と高まったと思います。各団体の今後の活動の発展を期待いたします。



森づくりリレー旗の返還



大賑わいのポスターセッション



全体会でのパネルディスカッション

### 「天童・不思議の森」

みどり環境 (株)滝の湯ホテル、東北バイオニア(株)  
 公募事業 (株)新東京ジオ・システム、(株)天童木工(天童市)

#### 【活動参加者から】

平成21年10月20日、天童市貫津地内不思議の森で、会員等44名が参加し今年度2回目となる、間伐などの森林整備活動を実施しました。

チェーンソー初体験の参加者達は、「想像していたより楽しかった」、「怖かった」、「大変だった」、「木を切っている間は久しぶりに無になれてすがすがしい気分になった」など反応は様々でした。

間伐終了後に1回目の活動で間伐した丸太を利用し、テーブル作製に挑戦しました。「ちゃんと使えるようにして」等の声が聞こえるなか、立派に完成し展望台に設置しました。

全ての作業が終わった後、沢山のきのこが入った芋煮を食べながら、「最高の一日だった」、「これからも活動を続けて次世代につながる森づくりをしたい」、「来年の活動も楽しみにしています」、などの感想が聞かれ、とても有意義な活動でした。



作成した間伐材テーブルを前に

### 「もみじの森づくり事業」

みどり環境交付金・西川町

#### 【活動参加者から】

平成21年11月1日に西川町の沼山公園で、もみじの植樹が行われました。

この公園は、かつて松林が美しい景観を作り地区の憩いの場でしたが、松くい虫により松が枯れて、荒れた森林となってしまいました。

このため、みどり環境交付金事業により、かつてのような美しい沼山の風景を新たに作ることになり、将来の子供達に素敵な森を残したいとの思いから、多くの町民がもみじの森づくりに参集しました。地元の小学生も、「大きくきれいなもみじになって」、「枯れないように」、「たくさん葉がつきますように」などと様々な思いを込めて植樹をしました。

今後も、手入れを続けながら、もみじの森を見守っていきたいと思っています。



沼山公園もみじの森づくり植樹



### 「最上地域森づくり報告会」

平成22年1月17日(日) 新庄市「最上広域交流センター“ゆめりあ”」

県内4会場の森づくり報告会の先陣をきって行われた最上地域森づくり報告会は、約80名の参加者の中、まず、管内の全公募事業実施団体と全市町村によるポスターセッションが行われました。はじめは口数の少なかった参加者も、コーディネーター役の豊後富也さんの名進行により最後は大盛り上がりとなりました。

引き続き、報告会が開催され、まず、「里山からはじめる森づくり」と題して、講師であるNPO法人樹木・環境ネットワーク協会理事長の澁澤寿一さんの基調講演が行われました。

講演では、「森づくり活動の目的は地域づくり活動であり、地域の活性化のためには複合的な活動が必要である。林業（大きいビジネス）の再生だけでは山村は活性化しない。小さいビジネス、金にならない活動が同時に動いて地域の活性化が達成される。その部分で森林ボランティア活動の真価が発揮される。また、地域の活性化にはよそものを受け入れてはじめて広がりがでてくる。すでに都市部と交流をおこなっている団体もあるが、もっともっと外部に自分たちの活動を発信し、活動の輪を広げていってもらいたい。」と、参加者の心に響くお話をいただきました。

今回行いました全公募団体・全市町村の発表・参加による報告会は、初めての試みでしたが、参加者のより強い参加意識と積極的な情報交換の場となり、大変良い機会となったと考えています。



最上地域森づくり報告会のようす



澁澤寿一氏の講演のようす

### 「めばえの森づくり事業」

みどり環境公募事業・めばえ幼稚園(金山町)

#### 【発表者の声】

幼稚園の敷地の裏に園児が遊ぶことができる森があり、そこに親子での木製遊具を作りました。また、夏のサマーキャンプでは木製クラフト体験も行いました。園児が安全に山遊びを行うために、お父さん達が森の管理を行いました。家族の“絆”を深めるために、みどり環境税はなくてはならないものになっています。



活動を紹介したポスター



発表の様子

### 「土湯の森づくり推進事業」

みどり環境交付金・戸沢村

#### 【発表者の声】

最上川スキー場跡地の森林再生のため、いろいろな活動を行いました。春には、地域住民・子供達と一緒にブナの植え付けを行いました。夏には、国際交流で村を訪れていたアジア学院の留学生も一緒にススキ等の刈り払いを行いました。秋には、山形大学の学生と協働での植生モニタリング調査や地区住民と一緒にナラ枯れ処理とこのコマ打ち体験を行いました。これからも、地域住民、子供達、協議会員、行政が協働で森づくり活動を推進してまいります。



植え付け



発表のようす

### 『置賜地域森づくり活動報告会』

平成22年1月24日(日) 米沢市「伝国の杜」

開催当日は、大変寒い日にもかかわらず、予想をはるかに上回る134名もの参加がありました。

ポスターセッションには、情報交換と交流を目的に置賜地域のみどり環境公募事業実施団体30、市町8、県3の計41団体が参加しました。参加者からは、「他の団体と意見交換できて有意義だった」、「一斉に会場に入ったからか会場が狭かった」などの声があったほか、参加者のアンケートではほとんどが「参考になった」との回答でした。

基調講演は、講師に矢作川水系森林ボランティア協議会代表の丹羽健司氏を迎え、『段階的な参画のしくみづくりー「森の健康診断」から「木の駅プロジェクト」へ』と題して行われました。講演では、岐阜県の矢作川水系で広がりを見せている森林ボランティア活動の事例を具体的な取組みを交えて紹介していただきました。小さな点の活動から線そして面的な活動に広げていくためには「よそ者・若者・バカ者・変わり者」が必要との持論を展開し、比較的年齢層が高かった参加者たちには少々耳の痛い話でもありましたが、今後の活動にあたって大変参考となったのではないのでしょうか。

活動発表は、公募団体を代表して源流の森インタープリテーション協会と国土防災技術(株)、管内市町を代表して米沢市が活動事例の発表を行いました。発表は活動事例を写真中心に紹介する内容であったためか、高い理念を持って活動している団体であるにも関わらず、活動にあたってのミッションや今後の展開などが見えにくかったとの意見もあり少し残念な結果となりました。意見交換会では、団体が抱える課題などについて意見を出してもらい、活動が広がらない原因として「金・物・人」が不足しているとの意見が多く出されました。

全体としては、ポスターづくりに苦勞した団体もあったようでしたが、自分たちの活動を整理して文字や写真を使って外に情報発信するという今回の試みは大変有意義であり、今後の活動のレベルアップにつながるものと期待しております。



ポスターセッションのようす



森づくり報告会場のようす

### 『「源流の森」の木を活用した見晴台をつくる』

みどり環境公募事業・源流の森インタープリテーション協会(飯豊町)

#### 【発表者の声】

当協会の活動の本拠地である「源流の森」において、源流の森内のスギ間伐材を活用して、白川ダムを望む遊歩道沿いに見晴台を会員自らの手で製作しました。

この活動を通じて、来園者に対して森づくりと木材の活用という資源循環の仕組みをインタープリテーション(案内・通訳)するなど、活動の幅を広げていきたいと意気込んでいます。



完成した見晴台にて

「源流の森」内に新たなビューポイントが登場しました。森と人とのつながりを手づくりで実践した協会の益々の活躍を期待いたします。

### 『地元産材利活用施設見学事業』

みどり環境交付金・米沢市

#### 【発表者の声】

置賜産木材を知ってもらい、地域材を使った住宅を建て置賜に暮らすという「地材地住」運動の一環として、置賜「地材地住」ネットワークと連携して見学会を開催しました。

当日は、学校林の伐採作業、地域材で建てた住宅、製材工場、最後に高等技能専門学校を見学して一日の活動を終了しました。

参加者からは、「木の大切さを実感できた」、「地元のスギで住宅ができていたなんて初めて知った。もっと市民にPRするべき」などの感想が出され、まず知ってもらうことが重要と感じました。



学校林にて



乾燥材と生材を比較

地域材がどのように使われているのか、以外に知らない人が多いと感じました。継続的な取組みを期待するとともに、県としても置賜の木のPRに努めていきます。

### 「庄内地域森づくり報告会」

平成22年1月30日(土) 鶴岡市「東北公益文科大学鶴岡キャンパス大学院ホール」

天候に恵まれた中開催された「庄内地域森づくり報告会」は、参加者が120名を越え、会場は熱気に包まれました。

まず会場ロビーで、今年度みどり環境公募事業・交付金事業を実施している全団体・市町が参加したポスターセッション（ポスターによる活動概要等の紹介）が行われました。「積極的に意見の交換ができた」、「参考になった」等の声が多く聞かれ、団体間の交流を深めることができました。

続いて、岩手大学の山本信次先生から「森林ボランティアの発展のために一多様な方向性とあり方」というテーマで講演いただき、森林ボランティアについて「地元の人が活動するだけでなく、いかに応援団をつけるかが重要」など示唆に富むお話を伺うことができました。森づくり活動報告では、未就学児等を対象にした森に親しむ活動、地域のマツやトチノキ林を守る活動、鶴岡市で始まった企業の森の活動など多岐に渡る活動発表がされました。意見交換会では「森林の開発と保全」や「海中林の育成」等について、積極的に意見が出されました。

今回の報告会は、やまがた緑環境税を活用した森づくり活動について、多くの方々に知っていただく良い機会となりました。

今後も、県民参加の森づくり活動をより一層推進していきたいと考えています。



### 「ブナの密での未就学児及び低学年期における自然体験活動」

みどり環境公募事業・環境教育工房LinX(鶴岡市)

#### 【発表者の声】

鶴岡市朝日地域のブナ林で、未就学児及び小学生を対象に森に親しむ活動を通じて「感性」や「好奇心」「想像力」「協調性」を養うことを目的に、トレッキング、ヤマネ等の樹洞性動物の調査や巣箱づくり、冬のかんじきハイキングなどを行いました。参加した子供達は徐々に周りの自然に興味を示し、慣れてくると独自の遊びを作り出している姿が見受けられました。



今年度の公募事業では、各団体とも、地域の特長を生かした活動が行われました。今後も、地域の森づくり活動が促進されることを期待してします。

### 「企業の森づくり推進事業」

みどり環境交付金・鶴岡市

#### 【発表者の声】

児童や市民を対象とした森林環境学習、森の案内人の養成、熊野長峰での地域住民との協働による遊歩道の整備、間伐材魚礁の設置、ラムサール条約湿地の保全活動、魚の森づくり等、地域の特長を生かした取組みを行いました。

今年度から始まった「JTの森鶴岡」の活動では、歴史的遺産である海岸砂丘林を保全するため、企業や地元住民等のボランティアによる森づくり活動等を行いました。作業後には、鬱蒼としていた林内に光が差し込み、多くの参加者が森づくりの大切さを実感できました。



交付金事業では、今後も地域の特徴を活かした取組みが広がることを期待してします。

## 『子どもたちに伝えたいこと…森にはたくさんあります』

～平成21年度「森林環境学習指導者研修」から～ 【森林研究研修センター】

森林研究研修センターでは、学校教育の中で、森林を正しく理解し将来、木材をはじめとする森林資源を循環利用する社会の一員として行動できる子どもたちを育てるため、教職員を対象に「森林環境学習指導者研修」を開催しています。今年度も、8月4日と5日の2日間、西川町にある森林研究研修センターの試験実習林において、五感を使った体験、森林環境学習のための具体的なアクティビティの展開など、学校の授業などで活用できる実践的な内容で行いました。

参加した先生からは、「理科の授業の中で使ってみたい」、「森をテーマにさまざまなアクティビティができることがわかった」などの感想が出されました。一方で、「多くの学校ではフィールド（森林）が近くにない」、「学校林の利用が少ない学校林を使った活動を支援していくことが必要」など課題も多く示されました。



「木を伐採し使うことについて考える」



副教材「やまがたの森林」を活用した学習

森林は、さまざまな動植物、菌類、それを取りまく大気、土壌など複雑なつながりの中で、それらのバランスが良好に保たれることで成り立っています。そこには、子どもたちに伝えたいことがたくさん存在しています。これからも、学校教育を通して、森林と仲良く付き合える子どもたちを育てていくため、研修で出された意見等を踏まえながら、この研修を継続して実施していく計画です。

また、今年度、県内の小学校5年生全員に配布された森林環境学習用の副教材「やまがたの森林」の効果的な活用方法についても、学校と連携しながら検討していきます。

## 『森の中で親子のふれあいを』

～平成21年度「元気な森の学校推進事業」から～ 【教育やまがた振興課】

県内4地区の少年自然の家では、身近な里山や県民の森などに家族で親しむ森林体験プログラム「親子ふれあい体験教室」を実施しています。参加したお父さん、お母さん方から感想をいただきました。

### 【飯豊少年自然の家】

『黒沢峠のブナ林を歩こう（5月24日）』に参加して…

- ・ 森や木が柔らかかで心が癒された。木の名前や峠の歴史を聞きながら歩いたせい、あつという間に峠を歩き切った感じがした。
- ・ 森のお話を聞くことができよかったです。山の中、自然の中を歩く機会はなかなかないので、たいへんいい体験でした。
- ・ 親子で同じことをする、しかも、自然の中で活動するのはお互いに大変気分のいいことだった。また、同じ場所を年月を経て訪れた時に、子どもの成長がわかるし、会話も弾むと思った。

### 【神室少年自然の家】

『燻製作り、グリーン・アドベンチャーに挑戦しよう（11月8日）』に参加して…



すてきな木の葉のお面ができたよ

- ・ 自然の中にいる子どものたくましさ、弱さを見ました。私自身、自然の中で弱いなあと感じたので、私の方から、もっと自然と積極的にかかわろうと思います。
- ・ 燻製は難しいものだと感じていたけれど、身近な段ボール箱で意外と簡単にできました。ふたを開けたときの変化に、子どもたちも驚いて感動があったようです。また、グリーン・アドベンチャーでは、自然のものを使った遊びが新鮮でした。どんぐりの鉄砲は、小さい子には少し難しかったようですが、それでも、「ポンッ」と音が鳴ったときは感動的でした。



豊かなブナ林の中でひと休み

### 『県民誰もが森と親しむ自然環境学習事業』

【置賜総合支庁福祉課】

平成21年度の「県民誰もが森と親しむ自然環境学習事業」では、7月に在宅の知的障がい者（授産通所施設利用者）57名、10月には在宅の精神障がい者（デイケア利用者等）36名の参加をいただき、「源流の森」において森林体験を行いました。

障がい者のみなさんには、森林体験、冒険体験、陶芸体験、クラフト体験、リラックス体験の各コースから2つを選んで参加していただきましたが、そこかしこに明るい笑顔が見られ、五感を使って森の心地良さを感じていただけたものと思います。



「源流の森」で自然環境学習

終了後には「また森に来たい」、「森を大切にしたい」という声が聞かれました。また、参加施設のスタッフの方からは「非常に生き生きとして、普段見られないような穏やかな表情も見られた」、「いつもは飽きっぽい方も集中して参加することができた」などといった感想をいただき、森の持つ癒しの力を改めて実感させられました。

障がい者のみなさんが、より森林体験しやすい環境をつくっていくため、障がいに配慮したプログラムの検討を行うなど、引き続き事業に取り組んでまいります。



自然の中でリラックス

### 『置賜地域に堀立川遊水地自然案内人13人誕生』

～「置賜自然環境学習エリア整備事業」で2年にわたる自然案内人養成講座を修了～

【置賜総合支庁環境課】

米沢市街地に近い（山形大学工学部の南西部附近）堀立川<sup>※</sup>遊水地（米沢市笹野町地内の湿原）を自然環境学習の場として活用していくため、地元ボランティア団体と協働の取組みにより、季節毎の生態系や動植物を総合的に解説できる自然案内人養成講座を開講しました。生態系、植物、鳥類、昆虫類の4つの分野のプログラムで受講者を公募し、平成20年度は基礎的な座学講座、平成21年度は実践的な現地講座とそれぞれ12回開講し最終的に13の方が修了されました。

案内人となられた方の講座の感想や今後の活動に向けての抱負を紹介します。

#### ☆植物に興味があるという60代男性

2年間にわたる長い講座であったが、受講者一同毎回楽しく自然や環境について、色々な講座をとおして学ぶことができた。毎回新しい発見と自然の仕組みの出会いに心躍る思いで参加させてもらった。今度は、インタープリター（自然案内人）として、市民のみなさんに堀立川遊水地の自然の豊かさや素晴らしさを教えていくことで恩返しをしていきたい。また、私自身もさらに楽しんで自然と親しみ、動植物の生きる環境をもっと学習し、堀立川遊水地を守っていきたい。



植物編講座で新発見する度に感激!!



昆虫類編講座で熱心にメモをとる

#### ☆ハッチョウトンボに会えるのが楽しみという50代女性

市街地からこんなに近い堀立川遊水地の素晴らしい自然環境をもっとたくさんの方に知ってもらいたい。ハッチョウトンボや色々な種類のアカトンボにも会えるし、咲く花も季節によって色々で、普段見ることができない希少植物もたくさん見ることができる。観察すればするほど奥が深いというか自然の不思議を感じます。花を見つけたり、鳥のなき声に耳を澄ましたりと、ここに来るだけで心が癒される。親子づれや家族で散歩がてらに足を運んでほしいですね。そんなところを、ちょっとでも教えられればと思っています。

※堀立川遊水地：一級河川堀立川の洪水調整のために造成された遊水地で面積は約9haの湿原

# 自然環境保全対策の推進

## みどり自然課取組み

やまがた緑環境税を活用した自然環境保全関係の事業として、①県内の代表的な山岳森林地域や里山の自然環境を調査し、自然環境の異変や希少種の状況等を把握する自然生態系保全モニタリング調査や「レッドデータブックやまがた」植物編の改訂に向けた希少野生生物分布調査、②本県を代表する野生鳥獣であるツキノワグマや、農産物に大きな被害を与えているニホンザルの生息状況等を調査する野生鳥獣生息動向調査、③傷ついた野生鳥獣やワナで捕獲されたツキノワグマを救護・放獣する大型鳥獣野生復帰事業、そして④希少野生生物や自然生態系の保全活動を行う民間団体や個人の活動を支援する野生生物保全県民ネットワーク支援事業などの事業を実施しました。

野生生物保全県民ネットワーク支援事業では、前年の西川町開催に引き続いて、民間で活動している団体や個人（これから保全活動に取り組もうとしている方を含む）を対象とした野生生物保全実践技術研修会を、鮭川村で開催しました。

研修では、まず鮭川村自然保護委員会の活動の報告を受け、その後、村内の里山のため池とその周辺の湿地や森林を現地調査し、当該地区の自然環境保全の課題と対策を考えるという実践的な課題に取り組みました。この研修会には、各地のボランティア団体のほか、自然生態系の観察学習に取り組もうとする小学校の先生も参加。意見交換や相互交流を深めた有意義な研修会となりました。



野生生物保全実践技術研修会の様子



# 新たな森づくりの推進体制の整備

## 普及啓発の取組み

### 『県民みんなが支える新たな森づくり』

県では、森の恵みに感謝するとともに、森林をはじめとする自然環境を守り・育てることの大切さについて広くPRするため、「やまがた森の感謝祭」をはじめとした様々な普及啓発事業を実施しています。

6月6日には、山形市の「西藏王公園 芝生広場」において約1,000名の県民の皆さんの参加のもと、「やまがた森の感謝祭2009」を開催しました。当日は小雨模様でのスタートとなりましたが、式典や森づくり活動の時には、時折日が差し込ん天気となり、子どもから大人まで森づくりや、様々な体験を楽しんでいました。

森づくり活動が盛んになる秋には、県内各地域で地区の感謝祭を開催しました。9月26日に南陽市吉野石膏の森でおきたま地域森の感謝祭を開催、次に10月24日鶴岡市、11月3日酒田市において「庄内森とみどりのフェスティバル」、10月31日には戸沢村で最上地域森の感謝祭を開催しました。やまがた森の感謝祭や各地域での感謝祭では、多くの参加者が植栽や育樹、森の中での自然観察や、木工体験など様々な活動を通して森に親しんでいました。

今年新たな取組みとして、9月中旬から11月まで県民の森での活動を主とした森づくりスタンプラリーキャンペーンを実施し、多くの方から参加いただきました。希望者には、「みんなが森の応援団」として登録していただき、様々な情報発信を行っていくこととしています。また、森づくり活動に関する情報は、やまがた公益の森づくり支援センターのホームページに掲載しています。是非、ホームページを御覧いただき、森づくりに御参加ください。



記念植樹後、知事を囲んで記念撮影